




発表項目 (行事名)		ほっかいどう未来チャレンジ基金 「みらチャレ通信」Vol. 29の発行について	
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
概要	<p>北海道の未来を担う若者達の海外挑戦を応援するため、平成28年12月に創設した「ほっかいどう未来チャレンジ基金」。この基金により海外に留学した方々の活動状況などをお伝えする月刊紙「みらチャレ通信」Vol. 29を発行しました。</p> <p>■掲載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4期生の募集を開始します！ ・留学生達の活動報告 <ul style="list-style-type: none"> 学生留学コース：石垣さん、有働さん、海辺さん、立花さん スポーツコース：向井原さん 文化芸術コース：清水さん 未来の匠コース：鹿野さん <p>■主な配布先 応援パートナー（企業、団体等）、道内大学等 ※基金ホームページにも掲載しています。</p> <p>■発行時期 毎月下旬</p>		
参考	ほっかいどう未来チャレンジ基金 公式Facebook「みらチャレ」 https://m.facebook.com/mirachalle/ 基金生の海外での活動状況等を随時掲載しています。 <div style="float: right; text-align: center;">  <small>公式Facebookページ</small> <small>みらチャレ</small> </div> 		
報道（取材） に当たって のお願い	助成対象者の海外留学の状況を情報発信することにより、道内の若者の海外挑戦に向けた機運醸成と、寄附などオール北海道での応援体制の構築を図っていきたくので、積極的な報道にご協力よろしくお願ひします。		
他のクラブ との関係	同時配付	（場所） 同時レク	
担 当 （連絡先）	総合政策部政策局総合教育推進室 永田 電話：ダイヤルイン 011-206-7380（内線 23-109）		

北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします！2月末時点で、第3期生6名が海外留学中です！

第4期生の募集を開始します！

ほっかいどう未来チャレンジ基金第4期生の募集を4月1日から開始します。学生留学コースは令和2年8月10日以降、その他3コースは7月15日以降で、令和3年3月31日までに研修等を開始する留学が対象です。詳細はホームページをご覧ください。

主な応募要件

- 4月1日現在で、18～39歳の方（学生留学コースは30歳まで）
- 道内市町村に住民登録がある方（学生留学コースは、道内の大学等に在籍している方）
- 留学先における受入機関が確保できる方
- 帰国後3年間は北海道に居住できる方（学生留学コースを除く）

主な支援内容

- 滞在費（定額）：12 or 16万円/月
（派遣先地域により変動）
- 往復渡航費（定額）：10 or 20万円
（派遣先地域により変動）
- 授業料、研修費等：上限30万円

選考スケジュール

- 面接一次審査：5月14日（学生留学）、15日（スポーツ）、19日（文化芸術）、21日（未来の匠）
- 面接二次審査：5月28日（学生留学）、6月3日（その他3コース）

応募期間

- 学生留学コース：所属大学等により異なる
- その他3コース：4月1日～4月24日



事前相談

第4期生への応募を検討している方や関係者等を対象に、みらチャレの応募資格や支援内容などについてのご相談を随時受け付けています。留学計画の検討にあたり制度を詳しく知りたい方や、応募後の選考プロセスなどについてご不明な点がある方は、是非ご相談ください。
※お問合わせ先は裏面下の連絡先です。（学生留学コースは、所属大学等にお問い合わせください。）

留学生たちの活動状況

学生留学コース

第3期生 石垣 のぞみさん 【留学先】ドイツ 【留学期間】2019年10月～2020年8月（11か月間）

本道農業の魅力を発信するため、持続可能な農業のあり方を考えるとともに、グリーンツーリズムを学ぶファームインを経営する農家に滞在し、有機農法やファームインの経営について学びました。この農場の家族とゲストが関わっているのを見て、農場を訪れる人に自然や農場を満喫してもらうだけでなく共に楽しむというスタンスで営んでいるのだと感じました。ゲストとホストを超えたこの関係は、ファームインを長く続けているからこそ生まれたものだと思います。

ドイツでは日本と比べてはるかに多くの有機認証の食品がスーパーに並んでおり、この農家でも有機認証を取得しています。ドイツでは、日本に比べてメディアなどを通じて、有機農業の現状について知る機会が多く、消費者が生産状況を把握しやすい環境が整えられています。



第3期生 有働 篤人さん 【留学先】フィンランド 【留学期間】2019年10月～2020年5月（9か月間）

札幌を世界のデジタル観光都市にするため、先進的なゲーム制作やソフトウェア開発を学ぶオウル大学では春学期が始まりました。履修している授業に「Social Computing」という授業があり、この授業では、インターネットを介して人と人がつながる時代になったからこそ起こりうる、コンピュータが関係する現象について議論しました。

インターン先のFingerSoft社での活動の一環として、イギリスで行われたPocket Gamer Connectsというイベントに参加しました。多くのゲーム開発者等と話をすることができ、将来ゲーム開発者としての心構えや、あり方などのアドバイスをいただくことができました。



第3期生 海辺 菜々美さん 【留学先】カナダ、アメリカ 【留学期間】2019年9月～2020年3月（6か月間）

北海道の地域資源を活かした観光振興のため、アラスカでアドベンチャーツーリズムを学ぶ

1月は、受入機関であるパーマミュージアム・ビジターズセンターとパーマ高校でのボランティア活動、パーマ中学校での姉妹都市交流のオリエンテーション、パーマ・佐呂間会主催の新年のお祝いイベントの参加に加え、内陸部のフェアバンクスにあるチナ温泉リゾートで1週間のインターンを行いました。

チナ温泉リゾートでは、フロントやアクティビティ業務など各部門で職業体験を行いました。チナ温泉のように中心地から離れていても、ブランドを作り、その価値を高め、ターゲットをしっかりと絞ったマーケティングにより、地方へ足を運ぶ観光客を増せるということがわかりました。



第3期生 立花 洋太郎さん【留学先】ノルウェー【留学期間】2019年8月～2020年1月（6か月間）※2月上旬に帰国

ものづくり産業に関する人材育成のため、ICTを活用したものづくり教育を学ぶ
 1月はベルゲン市内の公立高校3校を訪問し、施設や授業の見学、意見交換、インフォ等を行いました。その一つ、Slåtthaug 高校では、電気科と看護科が連携し、高齢化社会の解決策として、AIやIoTを利用して住まいの快適さや利便性を向上するスマートホームの活用について話し合い、住まいに関わる「ものづくり」という視点で社会問題の解決に向けて検討するなど、高校生の時から「ものづくり」について学ぶ場が提供されていると感じました。また、アンバサダー活動として、Stend高校において、日本の習慣や学校生活とノルウェーの学校の印象についての発表会を開きました。



スポーツコース

第3期生 向井原 洋平さん【留学先】アメリカ【留学期間】2019年7月～2020年7月（1年間）
 アスレティックトレーナーに必要な最新スポーツ医学の知識と技術を学び、道スポーツ界に貢献

1月中旬からチーム練習が再開され、週末に部内紅白戦を設けて実戦の中で戦力を見極めていきます。
 治療等に関しては、冬休み明けからすぐに運動強度が上がり、コンディショニング不良による腰や下半身の張りを訴える選手がおり、上手く説明をしながらコンディショニングに關しても教育しています。

また、北海道日本ハムファイターズの村田選手が自主トレのために訪れ、担当教授の協力の下、これまでの研究で得たデータから作成した肩のトレーニングに取り組みいただきました。



文化芸術コース

第3期生 清水 柚衣さん【留学先】ハンガリー【留学期間】2019年9月～2020年6月（10か月間）
 ハンガリーでリスト音楽院のプログラムに参加し、演奏活動を通じ、北海道の音楽環境やレベル向上を目指す

1月は21日～27日にイタリアのリボルノに行き、リボルノ国際コンクールに参加しました。コンクールは一次予選15分、セミファイナル35～45分、ファイナル20～30分の3つのプログラムを用意する必要がありました。残念ながら一次予選突破はできませんでしたが、良い集中力で弾ききることができました。

参加して感じたことは自分のプログラムの見直しと、指の強化の必要性です。2月から始まる新学期は、新しいプログラム作りに取り組みたいと思います。

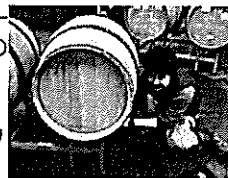


未来の匠コース

第3期生 鹿野 皓己さん【留学先】ドイツ【留学期間】2019年9月～2020年2月（6か月間）
 北海道ブランドのワインを確立するため、ワイン醸造の最先端技術を学び、醸造技術の向上を目指す

1月は私が勤めている北海道ワイン(株)と縁のある坂田千枝さんが醸造責任者を務めるワイナリー「BERNHARD KOCH」でビン詰め時のフィルターとドイツ国内でも高い評価を得ている樽仕込みのワインの移動作業の研修をさせていただきました。

ビン詰め時のフィルターは、ビン詰めしたワインに酵母やバクテリアの混入を防ぐ目的で行われ、準備だけでも1時間以上を要する手間と時間のかかる工程ですが、安全に安心して飲んでもらえるワインを届ける上で欠かせない作業であることを教えていただきました。このようなワイン造りの姿勢は実際に研修を受けてみて、日本の小規模ワイナリーでも取り入れるべき工程だと強く感じました。



応援パートナーの皆様

(2020年2月現在・敬称略)

有末 真哉 石川 諭史 遠藤 光二 小黒 敬三 坂詰 貴司 佐藤 友昭 (税理士法人FULL SUPPORT 代表社員税理士) 鈴木 伸明
 武田 孝 (拓殖工業(株)代表取締役会長) 船津 秀樹 その他匿名希望の個人・企業5者

北海道総合政策部政策局 総合教育推進室

TEL: 011-206-7380 (直通) FAX: 011-232-6313

E-mail: mirai_jinzai@pref.hokkaido.lg.jp

ホームページ: <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sk/mirai-jinzai.htm>



学生生活のイベントや行事を
 在留届けに活用